

ステップ	事例提供者の留意点	グループメンバーの留意点 (事例提供者以外の出席者全員)	スーパーバイザー (留意点)
1 準備 配布	<ul style="list-style-type: none"> <li>グループ人数分配布資料を用意し、配布。</li> </ul>	<p style="text-align: center;">全体を通して、よい雰囲気づくりにつとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>必要に応じて自己紹介</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>研修出席者の経験値や先輩後輩、上司や部下などの関係性から起こる遠慮などは不要であることを明確に確認する(※「発言の保障」→多様な発言を促すため。:通常、人は職場では無知・無能・ネガティブ・邪魔な人とは思われたいはずです。発言をすることで、そのように捉えられてしまうようなチームの雰囲気は消す必要があります。)</li> <li>事例提供者の提出意図に沿って検討することも明確に確認する。</li> </ul>
2 報告セッション 報告 5～7分 読み込み 1～3分	<ul style="list-style-type: none"> <li>本人の思いや現実とのギャップ、支援者としての悩みや迷いなど、助言が欲しいことを端的に説明する。</li> <li>単なるシートの読み上げとならないよう、「簡素なスケッチ」をイメージし、報告する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>報告の間は発言しない(黙って聴く)。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>全員が時間内での進行を意識するよう促す。</li> <li>事例提供者の求めている事柄に丁寧に焦点を当てる(利用者自身の事柄なのか、自分自身の事柄なのかなど)</li> <li>支援対象者を整理し、焦点化する場合もある。(家族全体・児童・雇用主など)</li> </ul>
3 質問セッション 情報の共有 質問 20～25分	<ul style="list-style-type: none"> <li>グループメンバーからの質問に端的にテンポよく答える(原則一問一答)。</li> <li>質問された内容以上の回答や説明は控える。</li> <li>わからないことはわからないと答えてよい(推測による回答は避ける)。</li> <li>アセスメントに穴があることは当たり前のことと捉える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事例の要点、判断理由などの欲しい追加情報や不明点等について、簡潔に質問する(原則一問一答)。</li> <li>提出意図に焦点をあて、自分なりの本人像の組み立てのために(意図・根拠をもって)質問。</li> <li>ただし、質問の根拠は省略し、求めたい内容のみ質問する。</li> <li>これまでの講義などで提示された、視点に沿って質問する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>本人像の共有から始め、徐々に環境やストレングスに着目した質問を促す。</li> <li>問題やマイナスの情報だけに焦点を当てないように注意する。</li> <li>自分が次のセッションで意見やアイデアを述べるための情報を探る。</li> <li>経験不足などから、アセスメントに不足が多くても非難せず、どのようにすれば情報を集められるかを意識する。</li> </ul>
4 ブレインストーミング (バズセッション) 本人像の共有 討議 20～25分	<ul style="list-style-type: none"> <li>このセッションでは発言・反応しない。</li> <li>黙って聴き、出された発言(本人像・アイデア等)を簡条書きにしながらか記録する。(ナンバリングしておく、整理しやすい)</li> <li>セッション終了後に確認したいことや質問があればメモを取る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>水平の立場で発言。事例提供者や他の出席者の批判をしない。</li> <li>積極的に発言する。</li> <li>自分の発言が少ないと感じたら、思ったことを口にしてみるとよい。</li> <li>端的にテンポよく発言する。</li> <li>事例報告者の方を向かずに発言する。</li> <li>より具体的・創造的な発言がよい。</li> </ul> <p style="text-align: center;">他の人の良い着眼点やアイデアをさらに展開させたり、今まで提示されていない視点・ストレングスに転換してみることも効果的。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分であれば、どのようにするか一人称で話す。</li> <li>まずは実現可能かどうかや制度のことは考えず、思いつくままに自由に発言させることを促す。</li> <li>徐々に具体的な方法や助言になるよう、意見を具体化させてゆく。</li> </ul>
5 応答 今後の取り組み 講師コメント含む 5分	<ul style="list-style-type: none"> <li>出された本人像やアイデア、解釈や意見に対し、応答する。</li> <li>次回の課題に向け、(次いつ会うか・)どのような関わりをしてみようと思うか具体的に表明する。</li> </ul>	<p style="text-align: center;">気づきはありましたか？</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事例提供者だけではなく、出席者全員に気づきがあったか確認する。</li> <li>事例提供者がうまく気づけない場合には、スーパーバイザーがまとめたり、促しを行う。</li> </ul>

概ね60分以内